

2 一般構造

2.1 木構造

2.1.2 各部構造

(A) 基礎

表 基礎構造（地上2階建て）

	立ち上がり高さ	立ち上がり厚さ	底盤厚さ	根入れ深さ
布基礎	30cm 以上	12cm 以上	15cm 以上	24cm 以上
べた基礎	30cm 以上	12cm 以上	12cm 以上	12cm 以上

(B) 土台

(C) 柱



(D) はり

(E) 筋交い・耐力壁など

表 部位ごとの構造規定

部位	対象	規定
筋交い	引張を負担	厚さ 15mm 以上、幅 90mm 以上の木材、もしくは径 9mm以上の鉄筋
	圧縮を負担	厚さ 30mm 以上、幅 90mm 以上の木材
合板		厚さ 5mm 以上の合板で耐力壁認定

(F) 床組み

(G) 小屋組み



2.1.2 部材の算定

2.1.3 接合

2.1.4 木造建築物の軸組の設置基準（構造計算）

（A）荷重算定

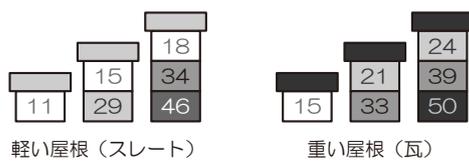


図 地震時必要壁量の係数

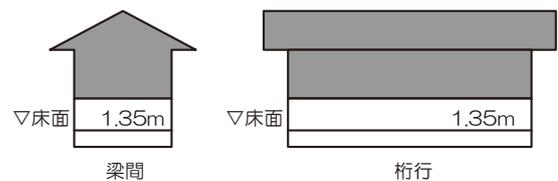
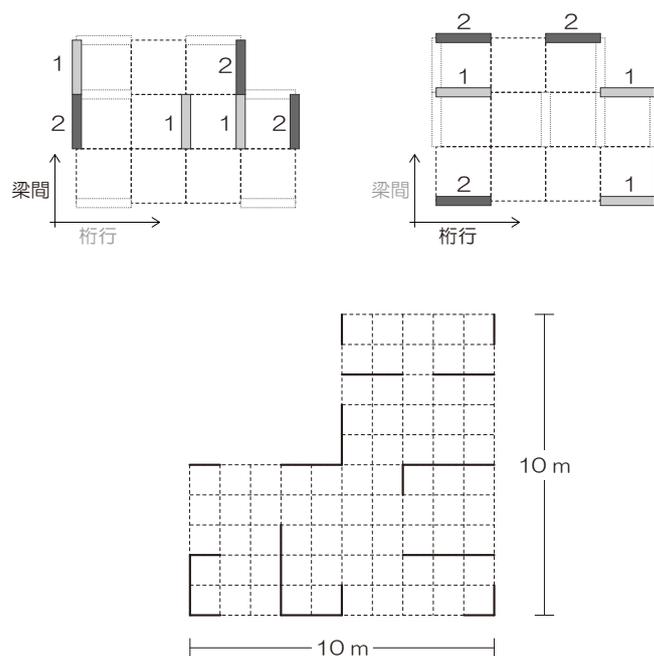


図 見付面積



(B) 壁量算定

耐力壁種類	壁倍率
石膏ボード (12.5mm 厚)	1.0
土塗り壁 (両面塗り)	
筋交い (15×90mm 以上)	
筋交い (30×90mm 以上)	1.5
ハードボード (5mm 厚)	
筋交い (45×90mm 以上)	2
構造用合板 (7.5mm 厚)	
筋交い (90×90mm 以上)	3
筋交い (45×90mm 以上) のたすき掛け	4
筋交い (90×90mm 以上) のたすき掛け	5



(C) 構造計算ほか



2.1.5 枠組み工法

2.1.6 防腐・防蟻

2.2 鋼構造

2.2.1 鋼構造の特性

2.2.2 許容応力度

表 鋼材の許容応力度

長期				短期
圧縮	引張	曲げ	せん断	全て
F/1.5			F/1.5√3	長期×1.5



2.2.3 接合

(A) ボルト接合

(B) 高力ボルト接合



(C) 溶接接合

(D) その他の溶接

- ・ なし

(E) 溶接継目の耐力

表 溶接部分の許容応力度

	長期				短期
	圧縮	引張	曲げ	せん断	全て
完全溶け込み	F/1.5			F/1.5√3	長期×1.5
上記以外	F/1.5√3				



(F) 併用継手

2.2.4 部材の設計

(A) 引張材

(B) 圧縮材



(C) はり

(D) 筋交い・他

2.2.5 柱脚



2.2.7 鉄骨造の耐震計算

- ・ 保有水平耐力計算：保有水平耐力 (Q_u) \geq 必要保有水平耐力 (Q_{un})
- ・ 保有水平耐力：建物の一部または全体が地震力によって崩壊メカニズムを形成する場合に、各階の柱/耐力壁/筋交いが負担する水平耐力のこと、脆性な破壊が生じる際には脆性部材に破壊が生じた際の負担水平力となる、各部材の材料強度（JIS の規格品は基準強度を 1.1 倍可能）で評価、耐力壁に多くの水平力を負担させると靱性が低下するので「必要」保有水平耐力が増します
- ・ 必要保有水平耐力：大地震時に崩壊メカニズムを形成する際に必要な水平方向保有力、構造特性係数 (D_s) \times 形状係数 (F_{es}) \times 地震層せん断力 (Q_{ud} 、標準せん断力係数は 1.0 以上)
- ・ 構造特性係数：靱性に富むほど・減衰が大きいほど小さい、各部材の種別により値が異なる（A種が良、D種は脆性破壊の恐れあり）、S・SRCでは0.25~0.50、RCでは0.30~0.55

